



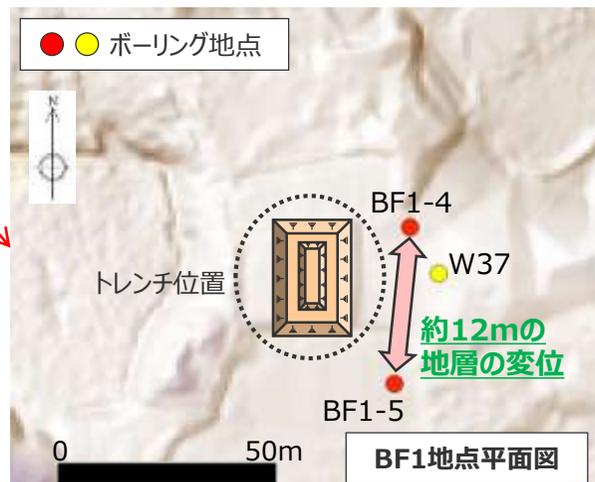
# 浜岡原子力発電所

## 敷地の地質・地質構造 調査状況

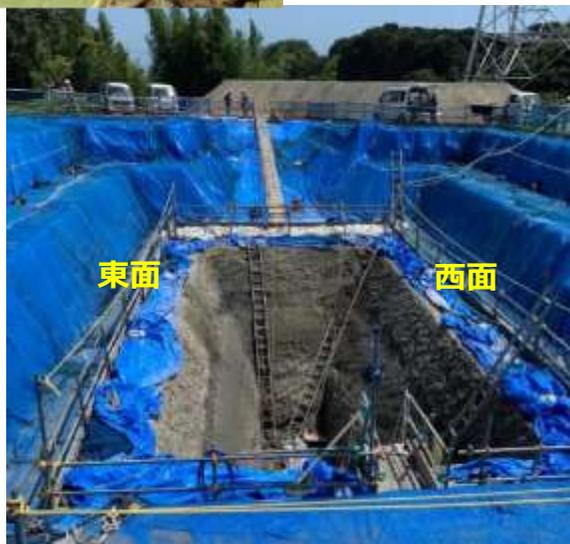
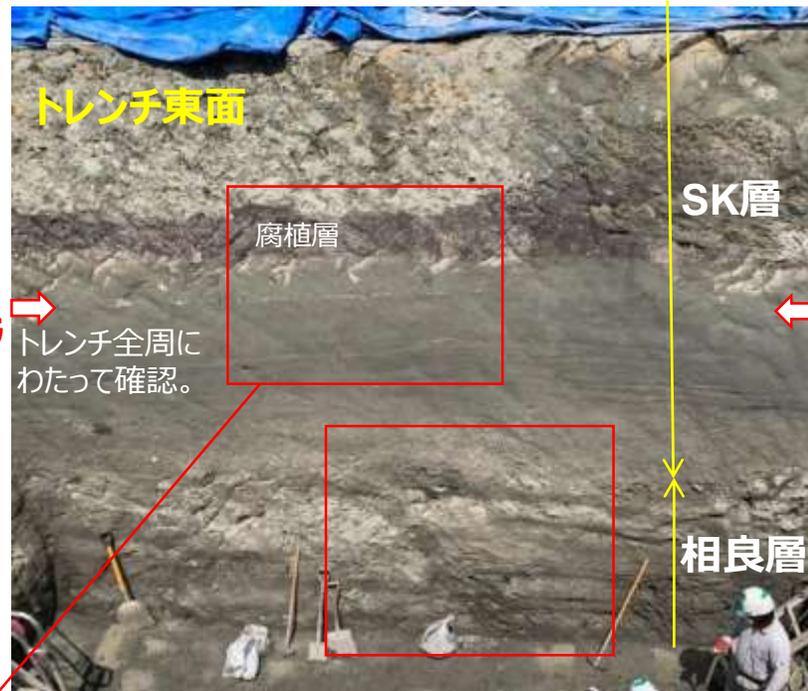
2023年7月19日

# <速報> BF1地点における火山灰（SKRテフラ）の確認

- BF1地点のトレンチにおいてSK層中に火山灰層（SKRテフラと命名）を確認。
- SK層下位の相良層中にはH断層系と思われる2条の断層面を持つ断層も確認。
- SKRテフラ及びその上位の腐植層等は，断層による変位変形を受けていない。

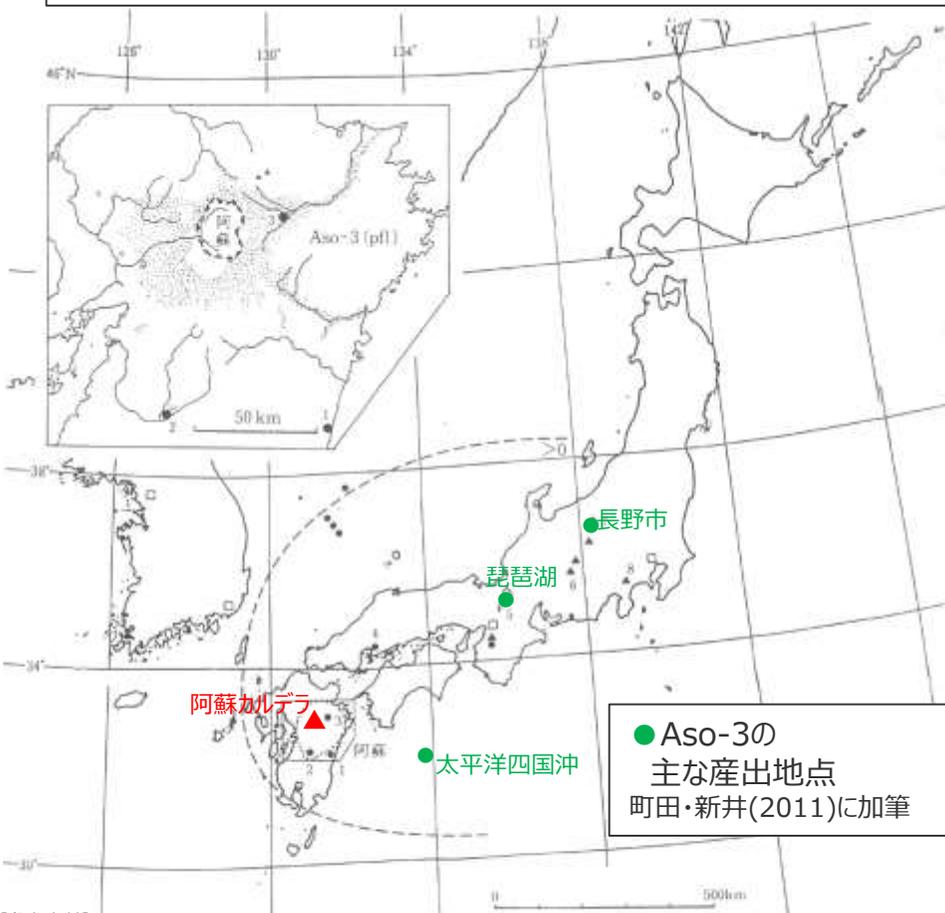


SKR  
テフラ

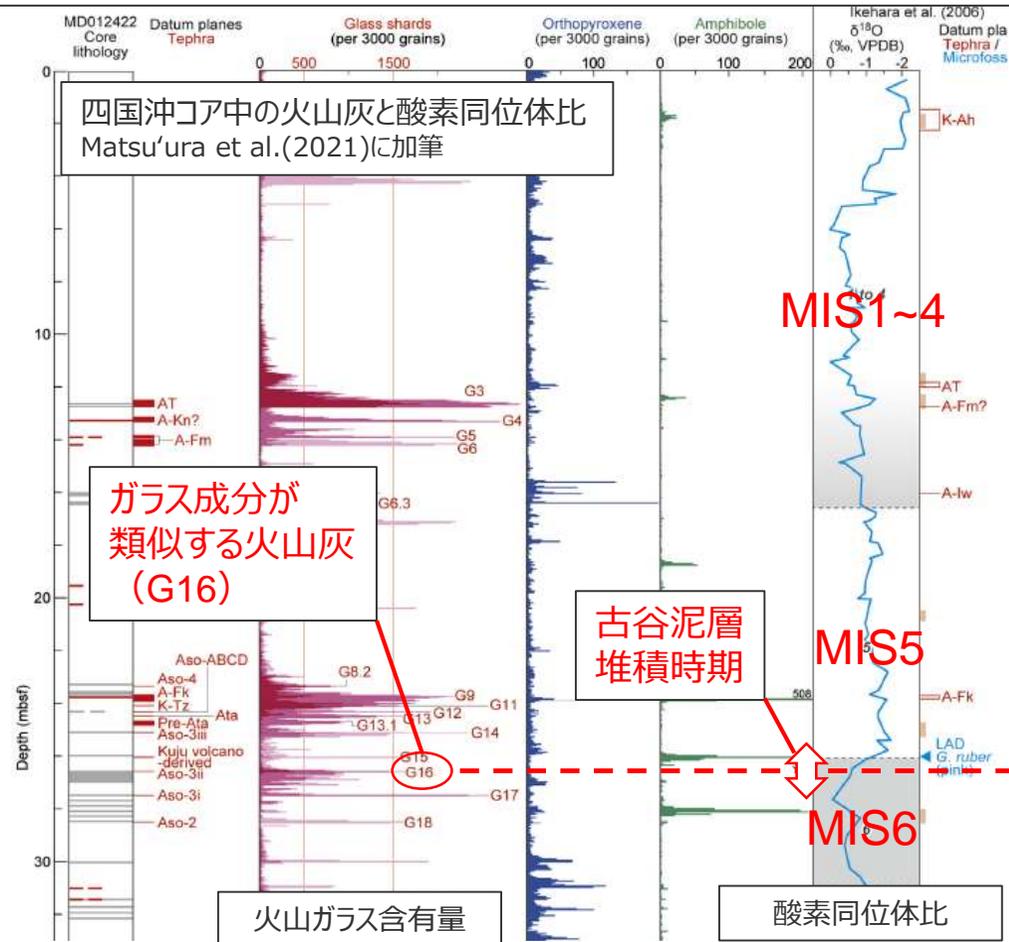


# <速報> SKRテフラの降灰年代

- SKRテフラは、長野県及び四国沖などで確認され阿蘇3テフラ（Aso-3、約13万年前、MIS6/5境界付近の火山灰）に対比されている火山灰と、ガラスの主成分が類似している。（次頁参照）
  - ➡ SKRテフラもAso-3テフラに対比される火山灰と評価できる。
- SK層は文献及び当社評価において、古谷泥層（MIS6から5にかけての堆積物）と評価しており、今回のSKRテフラによる年代評価はこれを裏付ける結果となった。



● Aso-3の  
主な産出地点  
町田・新井(2011)に加筆



四国沖コア中の火山灰と酸素同位体比  
Matsu'ura et al.(2021)に加筆

ガラス成分が  
類似する火山灰  
(G16)

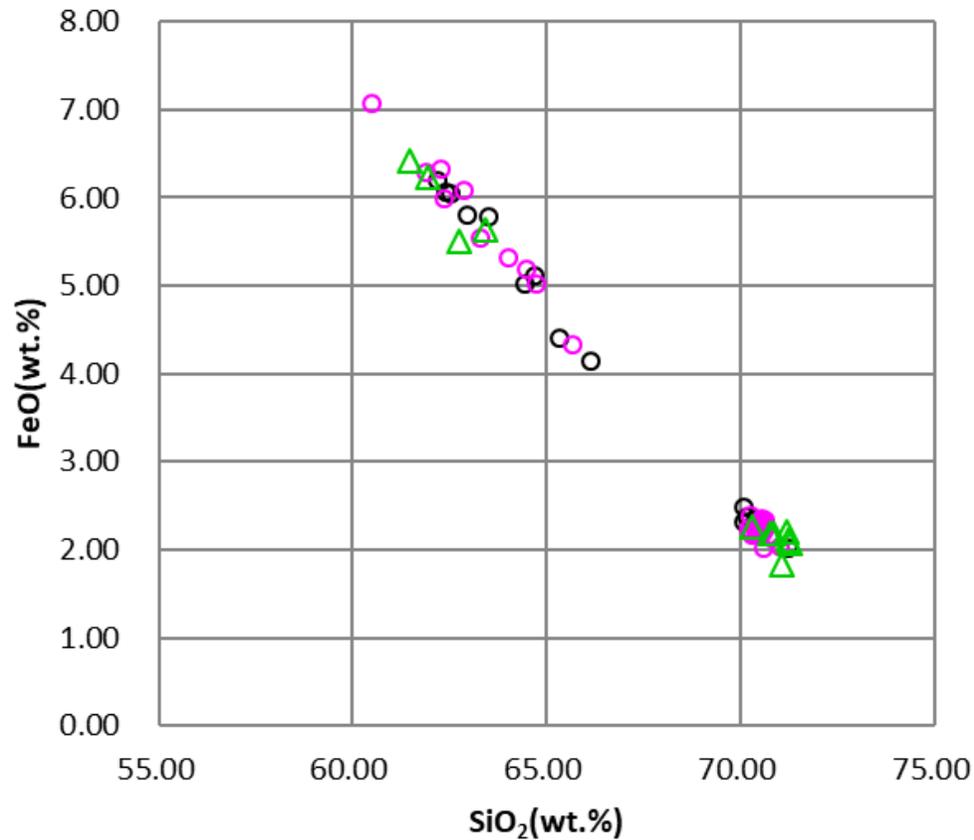
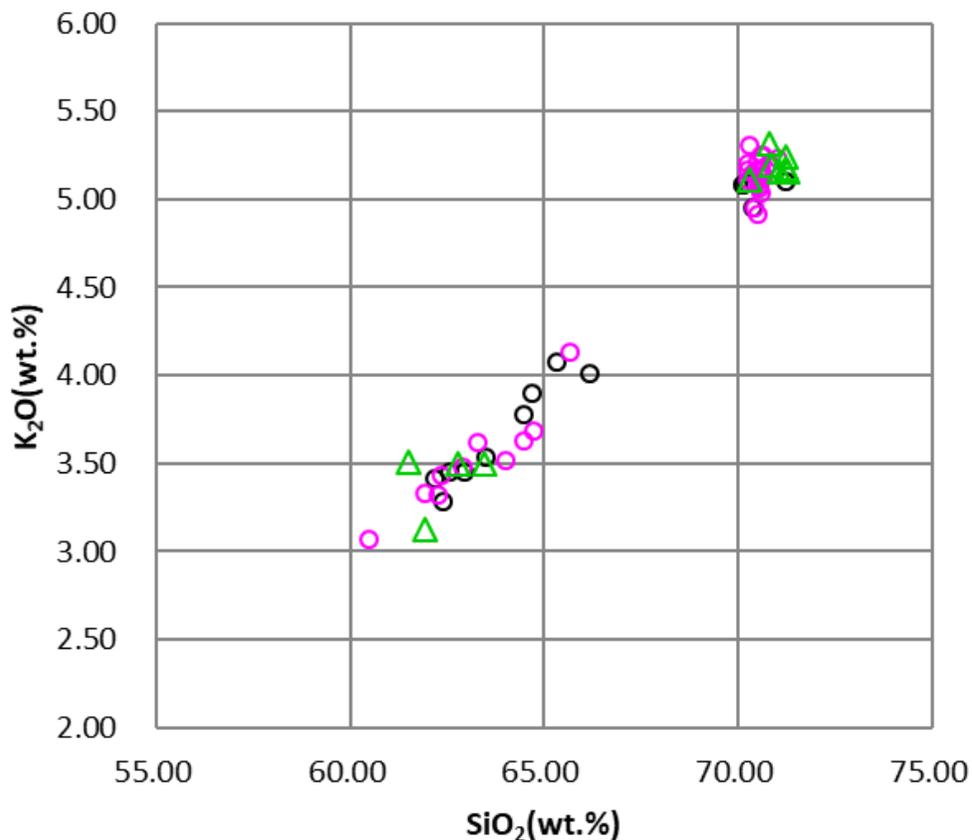
古谷泥層  
堆積時期

火山ガラス含有量

酸素同位体比

【参考文献】  
 ✓ 町田洋・新井房夫(2011)『新編 火山灰アトラス 日本列島とその周辺』東京大学出版会。  
 ✓ Matsu'ura, T., M. Ikehara, T. Ueno(2021), "Late Quaternary teprostratigraphy and cryptoteprostratigraphy of core MD012422: Improving marine teprostratigraphy of the NW Pacific", Quaternary Science Reviews, Vol.257, 106808.

# <速報> 四国沖で確認されたAso-3 (Aso3- ii) との主成分比較



## SKRテフラのガラス主成分

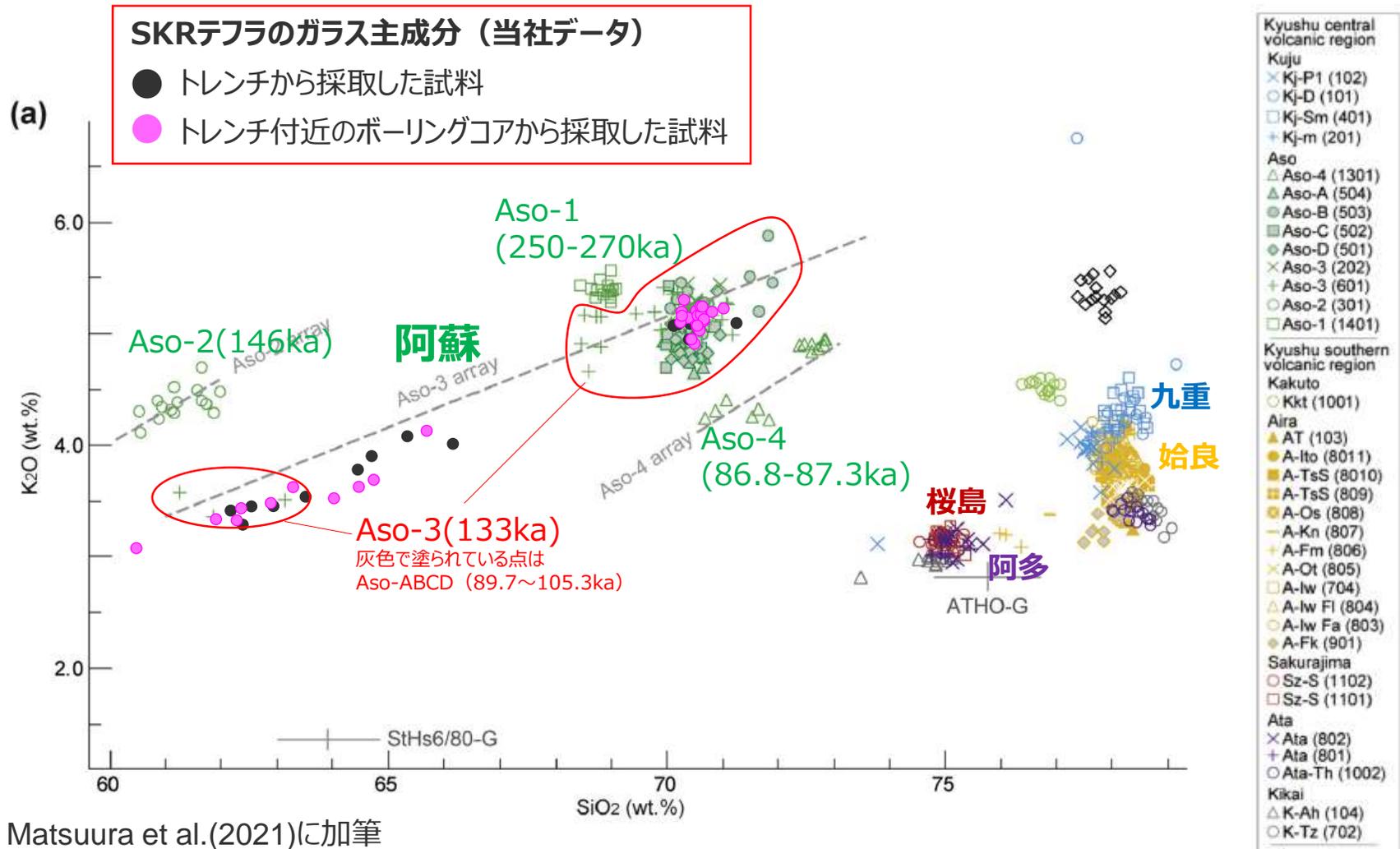
- トレンチから採取した試料
- トレンチ付近のボーリングコアから採取した試料

- △ 四国沖でMIS6/5境界付近で確認されている火山灰 (G16 : Aso-3 ii に対比) のガラス主成分
- Matsu'ura et al.(2021)

SiO<sub>2</sub>比率が高いガラス・低いガラスが混在することが特徴

【参考文献】

✓ Matsu'ura, T., M. Ikehara, T. Ueno(2021), "Late Quaternary teprostratigraphy and cryptoteprostratigraphy of core MD012422: Improving marine teprostratigraphy of the NW Pacific ", Quaternary Science Reviews, Vol.257, 106808.

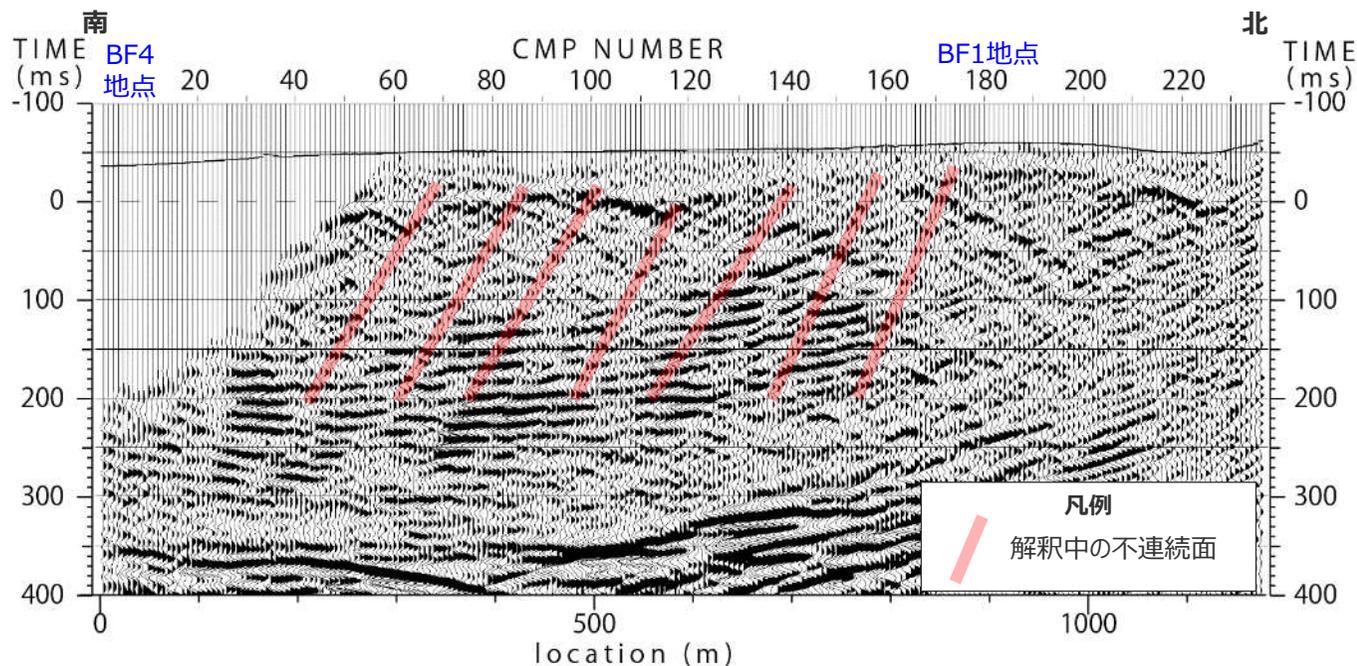
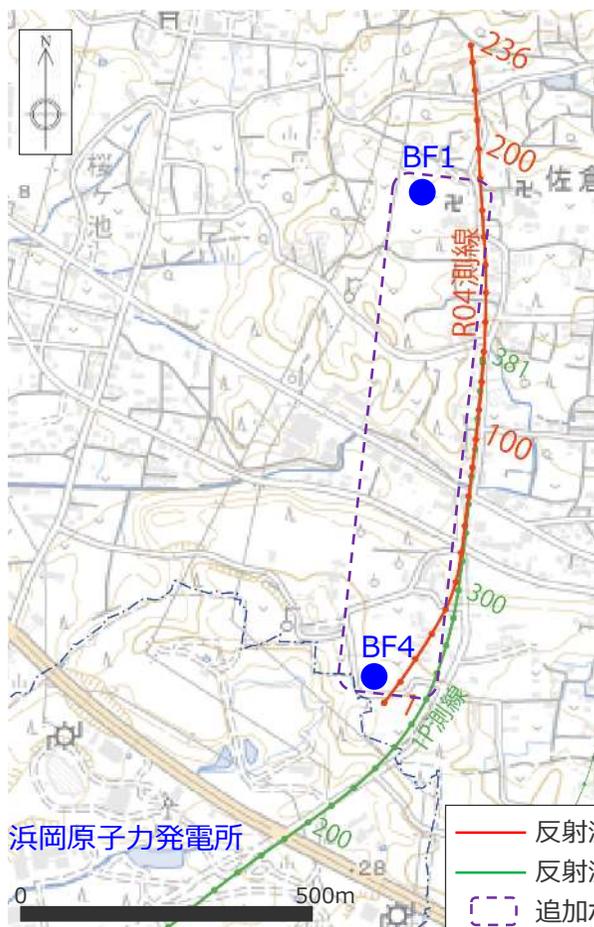


【参考文献】

✓ Matsu'ura, T., M. Ikehara, T. Ueno(2021), "Late Quaternary teprostratigraphy and cryptoteprostratigraphy of core MD012422: Improving marine teprostratigraphy of the NW Pacific ", Quaternary Science Reviews, Vol.257, 106808.

# H-9断層より北側のH断層系調査状況

- 反射法地震探査により、H-9断層（BF4地点）より北側においては、BF1地点にかけて南傾斜の不連続面が等間隔に分布することを確認している。
- 上記不連続面を確認した測線の西側においては、地質構造を詳細に確認するためのボーリング調査（20孔程度）を実施中である。これまでに南側低下の地層の変位が一定間隔で認められることを確認しており、現在はこれらの変位を生じさせている断層（H-9断層より北側のH断層系）を直接掘り当て、その分布形態、性状（薄片試料による微細構造含む）を確認するための調査を行っている。



R04測線 重合後時間断面

反射断面については、今後、本測線の南（敷地）側延長にあたる従来調査の測線と統合した深度断面を作成し、敷地からBF1地点にかけての総合的な解釈を行っていく。



中部電力